

※ 数値はすべて速報値となります。

火災件数・焼損床面積・死傷者数など

区分		板橋区計			板橋消防署管内			志村消防署管内			
		5/31 現在	前年 同期	増減	5/31 現在	前年 同期	増減	5/31 現在	前年 同期	増減	
火災 件数 (件)	合計	63	73	-10	24	34	-10	39	39	0	
	建物 火災	建物計	44	56	-12	16	27	-11	28	29	-1
		全焼	0	2	-2	0	1	-1	0	1	-1
		半焼	3	0	3	2	0	2	1	0	1
		部分焼	13	9	4	7	4	3	6	5	1
		ぼや	28	46	-18	7	23	-16	21	23	-2
	車両	1	2	-1	0	0	0	1	2	-1	
	その他	18	15	3	8	7	1	10	8	2	
焼損床面積(m ²)		305	250	55	118	45	73	187	205	-18	
焼損表面積(m ²)		195	182	13	71	81	-10	124	101	23	
死傷者数(人)	死者	3	2	1	2	0	2	1	2	-1	
	傷者	9	15	-6	3	7	-4	6	8	-2	

出火原因別件数(板橋区内)

令和5年		
順位	区分	件数
1位	電気	14
2位	たばこ	13
3位	放火 (疑い含む)	12
3位	こんろ等	12

火災の概要

令和5年5月末現在の板橋区内の火災は前年同期比で10件減少し63件となっており、残念ながら火災による死者が3名発生しています。

火災の原因としては電気機器やコンセント、コネクタなどを含む電気関係が引き続き多くなっており、たばこやこんろ等の生活に身近なものからの火災が増えています。

火災による被害を低減させるには、早期発見・早期通報が重要になってきます。住宅用火災警報器の点検や、コンセントの掃除、タコ足配線を避けるなど、大切な命や財産を守るため、日ごろから出火防止、被害の軽減対策に心掛けましょう。

夏本番前から熱中症予防対策！！

例年、夏季は気温の上昇とともに熱中症による救急要請が増加します。救急出場が増加すると、通報を受けてから救急車の到着までに時間を要することとなり、救える命が救えなくなってしまう可能性があります。熱中症予防対策は自分だけではなく、誰かの命を救うことにも繋がります。

熱中症は重症化すると命の危険を伴うものです。夏本番に向けて、熱中症予防対策を行い、熱中症に強い体を作りましょう！！

熱中症の予防とポイント

熱中症とは、水分補給が足りない状態や気温や湿度が高い環境にいることで、体温調節機能がうまく働かなくなり生じる、めまい、吐き気、頭痛などの様々な症状の総称を言います。

1 暑さに体を慣らしていく（暑熱順化）。

<ポイント>

日頃からウォーキングなどの運動をすることで、汗をかく習慣を身につけ、熱中症にかかりにくい暑さに強い体をつくりましょう。

2 高温・多湿・直射日光を避ける。

<ポイント>

- 屋外では・・・▶ 帽子や日傘を使いましょう。▶ 日陰を選んで歩きましょう。
- ▶ こまめに休憩しましょう。
- 屋内では・・・▶ 扇風機やエアコンを使用しましょう。
- ▶ ブラインドやすだれで直射日光を遮りましょう。



3 水分補給は計画的、かつ、こまめにする。

<ポイント>

- ▶ のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう。特に高齢者は注意しましょう。
- ▶ 起床時、入浴前後にも水分を補給しましょう。
- ▶ 大量の汗をかいた時は塩分も補給しましょう。



4 運動時などは計画的な休憩をする。

<ポイント>

- ▶ スポーツを行う人はもちろん、指導者等も熱中症について理解しましょう。
- ▶ 大量の発汗があった場合は、スポーツドリンクなどを摂取しましょう。
- ▶ 応援や観戦などでも熱中症が発生しています。水分をしっかり補給し、注意を怠らないようにしましょう。



5 乗用車等で子供だけにしない。

<ポイント>

- ▶ 車のような空間は短時間で室温が上昇し、事故につながります。
- ▶ 子供を車の中で、決して一人にしないでください。



6 子供は大人よりも高温環境にさらされている。

<ポイント>

- ▶ 地面に近いほど輻射熱は高くなります。
- ▶ 子供は大人の想像以上に輻射熱等の影響を受けていると考えましょう。
- ▶ 子供の体調変化に注意しましょう。



熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。落ち着いて、状況確かめて対処しましょう。最初の措置が肝心です。

チェック1 熱中症を疑う症状がありますか？
 (めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温)

はい ↓

チェック2 呼びかけに応えますか？

いいえ →

救急車を呼ぶ



救急車が到着するまでの間に応急処置を始めましょう。呼びかけへの反応が悪い場合には無理に水を飲ませてはいけません

はい ↓

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす

チェック3 水分を自力で摂取できますか？

いいえ →

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす



水のう等があれば、首、腋の下、太腿のつけ根を集中的に冷やしましょう

はい ↓

水分・塩分を補給する

チェック4 症状がよくなりましたか？

いいえ →

すみやかに
医療機関へ



本人が倒れたときの状況を知っている人が付き添って、発症時の状態を伝えましょう

はい ↓

そのまま安静にして十分に休息をとり、回復したら帰宅しましょう



大量に汗をかいている場合は、塩分が入ったスポーツドリンクや経口補水液、食塩水がよいでしょう

図 熱中症を疑ったときには何をすべきか

体温を効果的に下げるための方法の例

- ・ 上着を脱がせ、服をゆるめて風通しを良くする。
- ・ 皮膚に濡らしたタオルやハンカチをあて、うちわや扇風機であおぐ。
- ・ 服の上から少しずつ冷やした水かける。
- ・ 氷のうや冷えたペットボトルなどを、首、脇の下、足のつけ根にあてて冷やす。

「熱中症警戒アラート(※)」は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます。

※熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される日に発表する情報。

熱中症：環境保健マニュアル2022(環境省)より

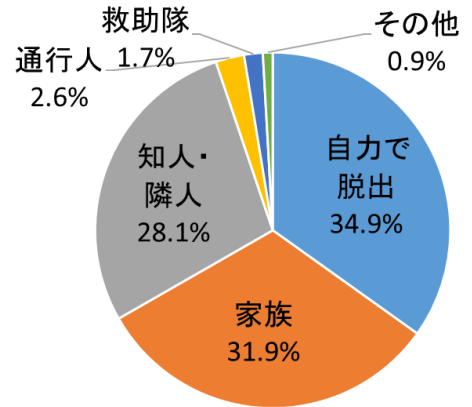
QRコード →



家具転対策を推進する意義

地震による被害を低減させる

- 大規模地震発生時に室内で居住者等が負傷しなければ、自力で避難ができ（自助）、周辺住民等を助けることもできる（共助）
- 火災発生時には初期消火対応ができ、延焼拡大を防止できる
- 大規模地震発生時に消防が救出活動に割けるマンパワー（公助）には限りがある



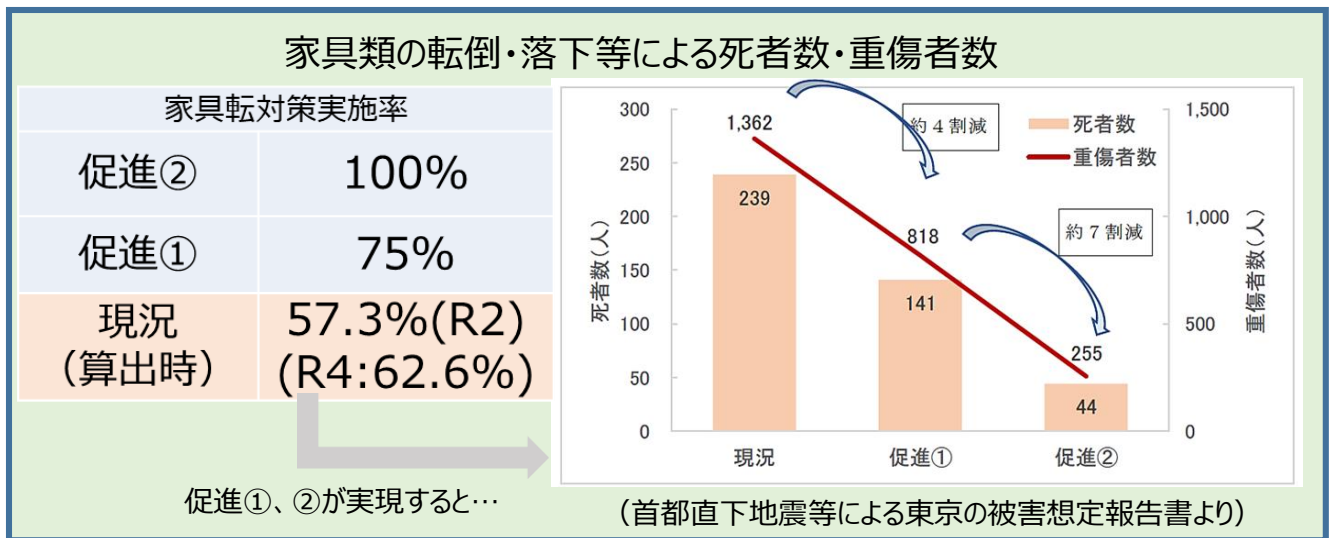
地震発生時の室内被害を減らすことができれば、火災・救助・救急等の発生、及び消防の対応件数の軽減に繋がり、より重大な災害等へより多くの消防力の投入が可能となります。

地震時のケガの要因の約3～5割が家具類の転倒・落下・移動による

地震時の室内被害を軽減させるために、「家具転対策」が必要。
ケガだけではなく、火災や避難障害が生じる危険性も軽減できる。

「首都直下地震等による東京の被害想定」報告書 令和4年5月25日 東京都公表
(家具類の転倒・落下・移動防止対策に関する部分(報告書7-2)抜粋)

➤ 防災・減災対策による被害軽減効果(都心南部直下地震、冬・夕方)



家具転対策実施率を向上させることにより、死傷者数を大幅に減らすことができることが分かりました。
促進①(75%)が実現した場合、死者数・重傷者数は約4割減少させることができます。

家具転対策により、自身と多くの命を守ることができる。(自助・共助)